

## 「根岸線沿線九条の会連絡会」

2021年11月29日

根岸線沿線で活動している「磯子地区」「森」「洋光台」「港南台」「栄区」「大船」の6つの九条の会が「連絡会」を作り、共同の活動をしている。各会では、大きな集会を企画することができないが、「連絡会」で協力すれば、大きな集会を実行することができる。今まで、小林節氏、浜矩子氏、宇都宮健児氏などを招いて講演会をしてきた。今回は、名古屋大学名誉教授で世界平和アピール7人委員会の池内了氏を招いて講演会を持った。

私は、池内氏の『科学者と軍事研究』を読み、誠実な論考に感銘を受けた。神奈川県に在住する大学の教師たちが、共同声明を出していた。その教師たちの中に池内氏の名前があり、神奈川県に在住していることを知った。「連絡会」で、池内氏を招いて講演会をしようと提案し、「連絡会」の世話人が依頼したところ、来てくださるとの快諾をいただいた。準備を重ねてきたが、新型コロナの感染拡大のせいで、2回延期しなければならなかった。今回ようやく、24日に新杉田駅前の「杉田劇場ホール」で開催することができた。入場数が制限され、150人ほどであったが、椅子を一人置きにした会場は満席になった。

栄区出身の音楽家・tomoko（ともこ）さんにトークと歌の公演をしてもらった。オリジナル曲を含め、7曲、彼女の優しさが伝わる歌声を聞いて、楽しんだ。

池内氏は「コロナ禍と戦争—今、人類の英知が試される」という講演をされた。コロナ禍の中、安倍・菅・岸田政権は学術会議任命拒否、オリ・パラ、国民投票法の成立、敵基地攻撃能力の獲得など、火事場泥棒のような政策を進めてきたということから、講演を始められた。そして、コロナ禍は、医療体制の充実が必要であるが、現実には軍拡のパラドックスが進行している。軍拡パラドックスは自衛という名目で、「アリ地獄」に陥ったかのように、防衛と攻撃がセットになって、戦力強化競争に歯止めがかからない。軍拡のために各国は莫大な予算をつぎ込んでいる。武器の範囲が宇宙にまで広がり、音速よりも早いミサイル開発などの悲観的な現実認識は、誰もが持っているのではないか。しかしここから、池内氏は異なる視点を展開された。現在、戦争はほぼ終焉していると説かれた。大国の小国への軍事介入は、米国のベトナム、イラク、中国のチベット、香港、ロシアのクリミア、ベラルーシなどがあるが、大国間では戦争はできない状況になっている。戦争ができなくなったのは、戦争に意味がなくなり、プラスをもたらさないからである。対立、紛争、衝突が起きそうな事態には、対話、調停、協力を訴える力が増している。国際的な組織においても、国際連合は戦争の違法化の徹底、平和的手段による戦争回避を目指している。非戦・軍縮でも、特定通常兵器使用禁止制限条約、核兵器禁止条約など、様々な条約が作られている。そして、戦争を起こした国、他国に理不尽にふるまった国は経済制裁を受け、戦争を克服していく状態が構築されつつある。ガンジーの「人格なき学問、人間性が欠けた学問に、どんな意味があろうか」、加藤周一の「戦争を批判するのに役立つ教養であったら、それは紙くずと同じではないか」という言葉を引用し、軍事的安全保障から人間の安全保障、軍事的抑止力から人間力による抑止へと人間の英知が平和を実現する時代に向かっていると語られた。人間の知性、学問（科学）を信じ、これを基礎に平和を構築していく。悲観的で、出口のない状態のように見える今、人間力による平和が来る。世界史の流れは、戦争が終焉する方向に動き、その到達点に憲法九条があり、世界の未来を先導している。戦争の放棄・戦力不保持・交戦権の否認の九条は世界に平和をもたらすと説かれ、大きな希望を与えられた。私がサインを求めた本に「知は力」と書いてくださった。